経済概況

金融政策レビュー　－ 2024年11月

2024年11月27日（水）

「金融政策委員会は本日、政策金利（OCR）を50ベーシスポイント引き下げて4.25%とすることで合意した。」

理由：

「消費者物価指数の上昇率は金融政策委員会が目標範囲とする1.0～3.0%に持続的に収まっており、コアインフレは中央値に収束しつつある。」

共通認識：

「ニュージーランドの経済活動は抑制されたままで、産出量は潜在能力を下回る状態が続いている。」

肯定的な面：

「金利低下が投資などの支出を促進するため、2025年中に経済成長は回復すると予想されている。」

一方：

「雇用は2025年半ばまであまり伸びず、経済的な圧迫がやわらぐまで時間がかかる場合もあるだろう。」

世界経済の見通し：

「世界の経済成長は当面抑制されたままになると予想される。地政学的条件と政策の不確実性は、中期的に経済とインフレの変動を大きくする要因となり得る。」

最後に…

「委員会は、今後のOCRは変遷する経済の評価に応じて変わるとの見解を確認した。」

コメント：

インフレ率が中央銀行の目標範囲内に落ち着いているため、大方の予想どおり、RBNZは金利を50bps引き下げ、OCRを4.25%としました。

RBNZは現在、脆弱な経済を復活させるために金融上の制約を迅速に取り除こうと試みており、過去3回の会合で計125bpsの利下げを実施しています。中央銀行は2025年にさらなる利下げを予想しており、年明けにもさらに朗報が入りそうです。2025年半ばには平均金利は3.83%まで低下すると考えられています。

ちなみにRBNZは、住宅ローン残高に対する平均金利は6.4%の今をピークに、今後12カ月間で5.8%まで下がると予測しています。しかし当然ながら、地政学的な緊迫を考慮に入れると、インフレ変動リスクが高まると警戒もしています。

タカ派的な5月の声明以来、RBNZが大きく方向転換したことは間違いありません。少なくとも中央銀行は以前の誤りを覆すために迅速に動いていると言えます。今後数日間でいくらかの談話が予定されていますが、その後数ヶ月ほどの間はどの委員も後陣に退き、ウエリントンのザ・テラス2番地にある準備銀行ビルからは次回2月19日の会合まで何の情報も漏れてくることはないでしょう。

マーケットへの影響：

RBNZの予測を大まかにまとめると、2025年後半のインフレのリバウンドが強まり、OCRの利下げサイクルは市場に沿うようになったものの、長期的には粘り強い推移が目立っています。中央銀行は成長率が年内に回復するとの見方も示しています。予測によると、第4四半期は0.3%の成長、その後2年間は各四半期で0.6%の成長と、過去3年間に実際に起こったこととは対照的な様相です。

これらの調整により、NZドルは0.5900水準に近づき、米ドルに対してさらに0.5%の利上げとなった一方、スワップレートは10bpsから12bpsに引き上げられました。市場は明らかにハト派寄りの見解と緩和路線を求めています。

＊日本語翻訳文と英語の原文に相違がある場合には、原文の記載事項を優先します。

BANCORP
BANCORP TREASURY SERVICES LIMITED
Barrington TREASURY SERVICES
Barrington ASSET CONSULTING
BANCORP
BANCORP CORPORATE FINANCE LIMITED